

# 親への暴力のスパイラルを断ち切る、グループホームのマジック！

神奈川県川崎市  
株式会社アイム  
アイムホーム稲田堤  
マネージャー 河野 誠二

## 1 はじめに

警視庁の報告ではH18に1,294件だった家庭内暴力がH27には約2倍の2,531件となり増加傾向にあるといえます。その主たる理由は「しつけ等親の態度に反発して」(65%)、それ以下は「勉強をうるさく言われて」といった動機が続いています。つまり、親からの一方的な規則の押し付けへの反発が主たる要因となっているようです。

この要因は発達障害の成人にもあてはまります。アイムが運営するグループホーム「アイムホーム」には、過干渉な規則が家庭内暴力につながり長期入院をしていた利用者があります。入居後はすぐに彼らの暴力は無くなり親との関係が安定するという変化が起きました。発達障害の共同生活の場所であるグループホームができることは何なのか。アイムホームでの取り組みをご紹介します。

## 2 事例や取り組みの紹介

アイムホームには現在6人が入居されております。いずれも区分3～5の自閉症で、重度の知的障害を持っています。アイムには一般的なグループホームと違い、「他の入居者に迷惑をかけない」「世話人に迷惑をかけない」以外のルールは殆どありません。なぜなら多くの発達障害者が幼少時代から家庭での細かすぎる“しつけ(ルール)”によって精神障害(多くが二次障害)を併発しているからです。アイムホームでは彼らのストレスを軽減することを優先し、毎日彼らが安心して社会へ出ていけるよう極力彼らの自主性を尊重することにしています。同時に、これは好き放題していいということではなく、共同生活を営むための最低限のルールを守れるように配慮をしています。

定員6人のうち、家庭内暴力が原因で長期入院した後、アイムホームに入居したケースが2名(Aさん、Bさん)おられます。特にAさんは「酷い暴力で両親を支配していた」と主治医からお聞きしていたので、体験入居では私どもも緊張して迎え入れましたが、どちらもアイムホームを見てすぐに「ここで暮らしてみたい」と言われその笑顔と前向きな発言にご両親ともに驚かれていました。

両者に共通していたのは、それまでは二人とも既存の就労支援が合わず、家に引きこもっている状態でした。就労支援での細かい規則と単調作業がストレスとなっていたからです。さらに親から毎日施設に通うことを強要されたため、親に暴力で抗議して、精神病棟への入院となっておりました。

この二人がアイムホームに入居して以来、問題が起きるどころか積極的に他の入居者と交流し、日中活動の場所にもきちんと通い、親との関係も安定してきました。そして二人とも入院生活は嫌いだだったので、グループホームで生活できるようになりとても満足しています。

## 3 考察

知的障害を持つ方が不安定になるのは、解消・理解できないストレスを与えられたときに顕著になるといわれています。AさんBさんの場合、親と通っていた施設から受ける“しつけ”によって逃げ場が無くなっていたことが、家庭内暴力の原因となっていました。アイムホーム入居後にこれらの細

かいルールから解放されたことにより、彼らの精神状態は安定しました。ある日の夕食時に彼らに何故イライラや暴力が無くなったのか聞いたことがありますが、彼らは口を揃えてこう答えていました。

「楽しいし、わかってくれるからイライラがなくなった」と。おもしろいことに、他の利用者も週末実家に帰るのですが、「早くアイムホームに戻りたい」といって楽しみにしているそうです。

ではアイムホームではいったいどのような取り組みを行っているのか。それはとても単純です。

1. 施設ルールは最小限とする（個々のマイルールを尊重）
2. アットホームな空間（共有スペース、個々の部屋ともに、そしておいしい食事）
3. アットファミリーな世話人（過剰な介入をせずにフレンドリーに）

以上の3点です。私たちは施設の都合（規則）を押し付けるのではなく、AさんBさんにとって最適なルールを共に探しました。そしてお互いの関係を微調整していくことで彼らのストレスを劇的に軽減できました。結果、それが安定した生活リズムとなり、親や知人との関係を良好なものにしました。

同時になのですが、アイムでは彼らの住居環境に一番配慮しています。見学にきた保護者や相談支援の方々から「私たちこそが住みたい家だわ!」と驚かれます。一般的に質素で地味なグループホームが多いといわれる中、私たちは彼らが落ち着ける明るくて楽しくなれる環境を重要視しています。そして何よりも「他の人からうらやましがられる」ようなグループホームを目指しています。



#### 4 おわりに

アイムホームに入居すると、定期診察に行くたびに精神科の主治医が「こんな笑顔で生活しているのですか?」と驚きます。そして先生からは「アイムホームさん、何かマジックでもかけているのですか? 薬も増やさずにこんなに安定した精神状態で毎日を過ごせるようになるなんて、信じられません。」とおっしゃられます。

私たち生活の場を担当させていただいている立場からは、彼らが実家や日中活動の場で受けてくるストレスの大きさがよく見えます。残念なことに今でも時々、彼らが通っている日中活動の場で指導員が何気なく発した言葉に傷つき「今日、こんなことを言われた」とか「もう行きたくない」など、苛立ったり気落ちして帰宅してることがあります。そんな彼らとそのストレスを解消するために寄り添ってくれる場所であり、スタッフなのだろうと思います。

日中活動でも住居の場でも unnecessary な細かいルールで縛りつけたとしたら、彼らはもう逃げ場を失い暴力で反発するしかなくなるのだろうと思います。彼らを「管理」するのではなく、ストレスをうまく解放できるよう「支援」する意識で生活をサポートすることが、アイムホーム流の「マジック」なのかもしれません。ちなみにその「マジック」の秘訣は、アットホームな環境と、当事者であるスタッフによるアットファミリーな温かさです。